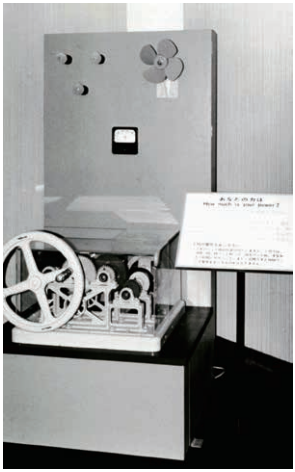
手回し発電

大阪市立電気科学館からの展示としては、１階の「手回し発電」もあります。ただ、「手回し発電」は大阪市立科学館が開館した1989年（平成元年）には展示場にはありませんでした。ところが、人気のある展示ということで、開館の翌年度には化粧直しして展示されています。その後さらに改良して、現在では200W以上発電するとミキサーが回るようになっています。

現在の「手回し発電」

名称も、現在は「手回し発電」ですが、1970～1980年頃のパンフレットでは「人間馬力」、大阪市立科学館の展示として復活したときには「人力発電」でした。



電気科学館の「人間馬力」

電気科学館開館前の青写真には「発電機説明装置」という展示があり、前ページの電気科学館開館時の展示の写真の右奥にも写っているようなのですが、姿もかなり違っています。いつの頃かわかりませんが、発電効率を上げるためにハンドルを大きくし、回転数を上げるギアをたくさん入れ、ランプが点灯したりプロペラが回るようになど、かなり改造されて、「人間馬力」になったのかもしれません。

というのも、「手回し発電」に使われている発電機を見てみると、電気科学館の開館当初から使われているものかもしれないのです。それは、発電機に付いている銘板で、「株式會社島津製作所」の下に会社の本社・支社・出張所等のある地名が小さな文字で「京都 東京 大阪 福岡 大連 伯林」と書かれています。島津製作所創業記念資料館によると、伯林（ベルリン）があって台北が書かれていないことから、大正12年～昭和5年に製造されたものであろうとのことで、電気科学館の開館前の発電機なのです。

復活した「人力発電」

発電機の銘板

長谷川 能三
（科学館学芸員）